



公立高校の入試について part 2

前回に引き続き、公立入試の実施内容の補足説明、いよいよ選抜 です。

高等学校名	選 抜 ()							
	一般学力検査	一般学力検査と調査書の活用方法						
	傾斜配点の 教科(倍率)	A(一般学力検査の成績)を重視			B(調査書の学習の記録)を重視			同等
		学力:調査書	定員枠(%)	順位	調査書:学力	定員枠(%)	順位	順位
安 西	数学(2倍)	7:3	10	2	7:3	10	3	1

【基礎知識】→6月に説明済み

選抜 の可否は調査書と当日の試験(一般学力検査)でほぼ決まります、つまり、
調査書(130点満点) + 一般学力検査(1教科25点満点×5教科=125点満点)の255点満点

調査書の学習の記録

学年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	計
1年	5	5	5	5	10	10	10	10	5	65
2年	5	5	5	5	10	10	10	10	5	65
3年	5	5	5	5	10	10	10	10	5	65
計	15	15	15	15	30	30	30	30	15	195

ここまで
決定しています。



$$\rightarrow \% \frac{130}{195} = 130$$

【傾斜配点】

1教科25点のところ、数学だけ50点満点にすること、それだけなら、一般学力検査が150点満点になるので、150で割って125をかけ125点満点に換算するのだと思います。

【一般学力検査と調査書の活用方法】

安西高校の場合、昨年の入学定員は280人、そのうち選抜 で56人の合格が内定しています、つまり、選抜 の定員は224名、昨年の定員で計算してみると、次のようになります。

優先順位1番 上の基礎知識で書いたように、調査書と当日の点をほぼ同等に見て、224人の80%(180人)まで合格者を決めます。

優先順位2番 つぎの10%(22人)は当日の点数重視で合格者を決めます、7:3というのは、どのように計算しているか公表されていませんが、当日125点×7、調査書130点×3で1265点満点、というふうにしているのかもしれませんが、

優先順位3番 最後に、残りの10%(22人)を調査書重視で決めます。

結 論

非常にややこしい話で、わかりにくいですね、知識として知っていれば十分です、面接や傾斜配点があるかないかで志望校を決めるのには賛成できません、大切なことは、『勉強して力をつける』ということです、入試は、大部分成績で可否が決定されるのです、そういう現実を嘆いても仕方ないので、1に努力、2に努力...、頑張りましょう、なお、選抜 については、別の機会に説明します。